



むろらんし
室蘭市

みなさんは「宇宙」と聞くとどんなイメージをうかべますか？ 室蘭市の室蘭工業大学（室工大）には、ロケットエンジンや人工衛星の設計を学べる学部があります。民間企業との共同研究も活発で、国内でも宇宙研究に力を入れている場所の一つです。こども記者まなっくの2人が大学内の航空宇宙機システム研究センターを訪れ、宇宙やロケットについて取材しました。（伊藤 素那）

「まなつく」は、まなぶの「まな」と、「行く・聞く・書く」に由来する愛称です
こども記者
まなつく見ぶん録

宇宙研究 ロケットに夢乗せて



パーカーさん（左）といっしょにロケットエンジンの燃料部分のつつをかかえ、重さを体験するまなつくたち＝室蘭工業大学・航空宇宙機システム研究センター

2人は室蘭市の田沢佑真さん（旭ヶ丘小4年）、伊達市の中原健太さん（東小5年）。センターの建物に入ると大学院生で人気ユーチューバーのパーカーさん（本名非公表）25がむかえてくれました。パーカーさんはロケットエンジンを研究しています。

まずは、学生の研究室へ。部屋にはいくつもパソコンが置かれ、ソファや冷蔵庫、炊飯器まであります。何だか人が暮らしてみたい。パーカーさんは「コンピュータ上で、ロケットエンジンの設計や性能を良くするための作業をしています。研究でいそがしい時はとまることもあります」と言います。

強力なエンジン 速さは新幹線の100倍

「ロケットは何のためにあるかわかる？」と聞かれ、中原さんは「物を運ぶため」と答えました。ロケットは物や人を運ぶために作られます。地球には、物を地球に引きつけようとする重力があるので、ロケットを飛ばすためには

重力をふり切る力も必要です。パーカーさんは「そのために燃料を燃やしながら飛びます。宇宙空間までは1〜2分で行けるんですよ」と教えてくれました。

最近、アメリカで行われたロケットの打ち上げ映像を見せてもらったまなつくたちは「初めて見た」とびっくり。「ロケットは時速約3万キロとされ、1秒間で9キロ進みます。新幹線が時速約300キロなので100倍の速さです」

次に向かった実験室はロケットエンジンの組み立てなどを行います。エンジンの中の燃料部分はつつの形をしています。持ってみたまなつくたちは「重たい」とおどろいた様子。「この燃料1本で体重100キロの人を運ぶ力があります」とパーカーさん。これを何本もたばねて重いロケットを飛ばします。さらに「今は、これの3〜5倍のパワーがあるエンジンを作る研究を進めています」と言います。エンジンの性能を試す時は、このセンターから車で1時間ほどの胆振管内白老町にある大学の試験場で行うそうです。

実験場見てみたい

中原 健太さん

伊達市・東小5年



今まで宇宙についてはあまり知らなかったけど、パーカーさんが優しくわかりやすく教えてくれてとても勉強になりました。自分たちのまちに近い白老町に日本有数のロケットエンジンの実験場があるのを初めて知りました。今度は実際に見てみた

いと思いました。ロケットが新幹線の100倍の速度で宇宙まで行けるのはすごいけど、ぼくはロケットに乗るのはちょっと怖いなと思いました。これから図書館に行った時は宇宙に関係のある本を読みたいです。

星の数におどろき

田沢 佑真さん

室蘭市・旭ヶ丘小4年



ロケットは小さな燃料のつつ一つで体重100キロの人を浮かすことができ、すごい速さで進むことにびっくりしました。宇宙には、天の川銀河の中だけで星がなんと1千億個から4千億個あること、そんな星の集団が宇宙全体にとってもたくさんあることも

おどろきでした。そんなにたくさん星があれば、宇宙人がいたり、水があったり、空気があったりするようになっていました。パーカーさんの話を聞いて、宇宙のことをもっとくわしく知りたいと感じました。